



SENSHOJI
YUKARI NEWSLETTER
1994-2025

ゆかり通信
VOL.331
令和 7 年 8 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2025年千正寺カレンダー 7・8月の言葉Ⅱ



「またね」と言った友がおり、
「おかえり」と迎えてくれる母がいる。
お浄土はもう賑やかだ。

今、このゆかり通信を読んでいる方は、お盆参りの際に渡された方がほとんどではないでしょうか。

浄土真宗のお盆は、一般的には8月13日から16日までの4日間に行われます。千正寺では有難いことにたくさんのお檀家さんがいますので、7月末に札幌や苫小牧など市外から盆参りを回りはじめ8月15日・16日に本堂で行われるお盆法要までに終わらせるようにしております。

お参りの件数はコロナ前と比べて少なくなってしまったとはいえ、それでも沢山のお檀家さんの家を回らせていただきます。私もお坊さんとしての初めてのお手伝いはお盆参りでありました。初めの数件はお坊さんとしての仕事を一人任されたことに緊張しましたが当時は一人一日30件弱、次第に緊張よりも足の痛みとの戦いが主になり、お盆になる度にダイエットを誓っていましたが、残念ながら足の方が慣れてしまいました。

さて、そんな私がお参りの際に最も多く聞かれるのが「お盆のお飾りの仕方」です。特に新盆などそれ以前まで用意してくれていたご身内が亡くなり、見よう見真似で一生懸命思い出しながら荘厳してくれるお宅も少なくありません。慣れないこと故に自信が持てずに不安になってしまうのは当然のことだと思います。

ただ前提として宗旨ごとに色々な考え方や作法があるのはわかっているとは思いますが、浄土真宗でのお盆のとらえ方は他の宗旨とやや違うことをご理解いただけますと幸いです。

浄土真宗のお供えの基本は、「お仏飯」・「お餅」・「お菓子」・「果物」等です。そしてお花は花瓶にお花を生け、お供えします。盆飾りということでしたらスイカなど果物を夏らしいものにするのも良いでしょう。

そしてですが浄土真宗と他宗派のお盆の一番の違いは「霊を迎える」という考え方がないことです。浄土真宗では、故人は亡くなるとすぐに仏となり、極楽浄土へ往生すると考えられているため、お盆にご先祖様が帰ってくるという認識はありません。

そのために良く盆飾りに見受けられる「精霊棚」は設けません。また「送り火・迎え火」や「ナスやキュウリで馬や牛を見立てた作り物」はしません。

「提灯」も迎え火という意味合いでいえば違うのかもしれませんが、阿弥陀様のみ光が私たちを照らしてくださっていると思えば、夏らしくて良いのではないのでしょうか。ただこのように書かせていただきましたが基本はこうだよということを伝えさせていただきたかっただけで、お盆は習俗的要素も多くありますのであまり難しく考えなくても大丈夫です。

一番伝えたいのは私たち浄土真宗では、亡くなってしまった大切な方に「お盆のみ」出会えるわけではありません。実は期間限定ではなく、いつもお浄土から還ってきてくださっています。そして自分が亡くなりお浄土にいった際には、大切な方々が迎えに来てくださり「おかえり」と言っていただけの宗旨なのです。

(本文：行武秀明法務員)